

派遣社員2名、有機溶剤中毒で休業

補償等求めて団体交渉中!

AさんとBさんは(株)ス
タッフサービスから派遣
され、今年2月から

適用職場であり、就労時
の安全教育が義務付けら
れていました。しかし会
社は、初めて派遣社員を
この仕事につかせるの
に、何の説明

場で働き始めました。仕
事は、マイクの内蔵部品
を、有機溶剤の入った接
着剤で何百個も組み立て
る作業です。細かい部品
のため顔に近づけて作業
していました。

そもそも、この作業場
は第二種有機溶剤を扱う
有機溶剤中毒防止規則の

も安全教育も
行いませんで
した。2人は
指サックだけ
の無防備なま
ま働き、頭痛
やふらつきな
どの症状を繰
り返し訴えま

12名が参加。蝉しぐれ降りしきる関
内駅頭に立ち、横断幕やプラカードを
掲げ、約100枚のビラをまきながら
脱原発を訴えました。扇子片手に立ち
止まってスピーチに耳を傾ける方や、
通り過ぎながら「がんばれよ」と声
をかけてくれる方もいて元気が出まし
た。皆さま、お疲れ様でした。

ユニオン ショック

2021年8月 289号

よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX045-575-1948
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp
ホームページ http://yuniyoko.sakura.ne.jp
組合費納入 横浜銀行 鶴見西口支店 普 1309777
郵便振替 00230-4-30435 よこはまシティユニオン

8/11 JR 関内駅前 脱原発ピラまき



ブルーマチックジャパ
ン(株)(横浜市都筑区、業
務用コーヒーマシンの販
売)の総務・人事部門で
働いていた須貝さん。19
年1月に入社して間もな
く、メンタル不調の社員
のフォローなどに従事さ
せられ、さらにベテラン
社員から云われなき叱責
を受けるなどして自らも
体調を崩してしまいまし
た。須貝さんは、時短勤
務、業務量の軽減などを
申し出て、治療しながら
就労してきましたが、結
局のところ負担が減るこ
とはありませんでした。

会社が、県労委にあっせん申請

うつ病で休職中の須貝さん

ブルーマチックジャパン(株)

今年1月、会社は、須
貝さんに対して、2ヶ月
分の賃金を支払うので3
月で辞めてもらいたい、
出社も必要ないと、退職
勧奨をしました。そもそ
も体調を崩したのは仕事
が原因ですし、わずかな
補償で退職することには
納得できません。さらに
会社は、提案した金額
に納得できないなら出社
するよう指示してきました。
つまり、辞めるか、
改善のない職場で働くの
かと迫られたのです。
須貝さんは3月にユニ
オンに加入し、労働条件
の改善を求めて団体交渉
をすることになりました。
た。団交で会社は、須貝
さんの病気はあくまでも
私傷病であり、会社は十
分に配慮してきたという
姿勢を崩しません。基本
的な事実経過すら認めよ
うとしないため交渉は決
裂。ところが、6月になっ
て、会社の方から神奈川
県労働委員会にあっせん申
請されたため、ユニオン
はこれを受けて解決を
めざしています。なお、須
貝さんは7月に労災申請
も行いました。【裏面に
インタビュー記事】

頭をぶつけた時に、ライ
ン長から初めて、「有機
溶剤中毒ではないか」と
言われました。
症状が悪化した休業せざ
るを得なくなった2人は
ユニオンに加入。労災申
請すると共に、団体交渉
に2社を同席させ、休業
補償や損害賠償等を要求
し責任追及しています。

労働基準監督署 & 労働局と交渉



今年も7月に労災職業病センター主催
で県下12労基署と局をめぐり交渉が行
われ、ユニよこも複数回参加。コロナ感
染対策のためマスクを着用し、机を離し、
仕切り越しに2時間のやり取り。労災や
安全衛生に関する状況や地域の特徴を聞き、
署の雰囲気等にも触れ、勉強になりました。
皆さんも来年ぜひご参加を!